

## 祖母の果物

高崎市立中川小学校 五年 横島 杏香

遠くでくらししている祖母が、私が小学校に入学したところから、祖母の家でしゅうかくしたブドウを送ってくれる。このブドウは、祖母が植えた木からしゅうかくしたブドウだ。

祖母の家には、果物の木が何本か植えてある。その中の三本の木は、私が母のおなかの中にいるときに祖母が植えてくれた木だ。その三本の木は、ブドウの木、桃ノ木、杏の木だ。ブドウと桃は、母も祖母も好きな果物だから大きくなったら私も好きになるだろうと考え、杏の木は私の名前に使われているからと、記念に植えたそうだ。今の私は、母や祖母の予想したとおり、桃やブドウが大好きだ。

祖母は私のために木を植えてくれたが果物の木は、植えてから何年もたたないとしゅうかくできない。それに、しゅうかくできるようになるまでにたくさん世話をする必要があることを母から聞いた。

例えば、ブドウの木はつるのような枝をのびながら大きく成長するから、あさがおを育てるときのように支柱を作ってあげないと、よいブドウの実がしゅうかくできないこと。そしてその支柱は、ブドウの木や実の重さを支え、雨、風そして雪にたえなければならぬから、丈夫なものを作らないといけないこと。また、桃の木には毛虫などの虫がつきやすく、手入れが大変なことが分かった。

それでも、私が成長したときにおいしいと食べているところを想像して、祖母は木を植え、世話を続けてくれているのだと思う。

今まで、夏休みのような長い休みの時しか祖母の家に行くことはできなかったため、自分でしゅうかくすることができなかった。でも母や父にたのみ、果物をしゅうかくするときに祖母に会いに行きたい。そして、自分で木からしゅうかくした果物を食べ、祖母に、

「おいしい、ありがとう。」

とお礼を言いたい。